

平成 21 年度 事業状況報告書

財団法人 地球システム総合研究所

地球システム科学・工学に関連する科学技術は地球が関係するすべての分野において必要不可欠なものであり、限りある地球の安定的有効利用と社会の持続的発展を達成するためには関連科学技術の高度化とその有効利用が各分野から強く要請されている。その要請に答えるために、関連技術の更なる研究開発とその有効利用を積極的に推進することが喫緊の課題である。

そこで、当財団法人は次に示す事項に重点を置き、研究的事業および研究成果の実用化を推進し、その普及に努めてきた。

- ◎ 地球システム工学の基幹分野である建設・防災・環境保全及び地下資源開発やエネルギー開発などに関連する工学に関する基礎的・応用的研究の推進。
- ◎ 現場から寄せられる地下構造解明、地質・地盤の安定性の診断や防災対策などに関する諸問題を解決するための実際的な研究と助言。
- ◎ 開発された新技術の実用化の推進。
- ◎ 研究会・講習会などの開催。

平成 21 年度は、公益的活動のさらなる活性化のために、各部門研究会が中心となって活動を展開し、地球システム工学の基幹分野である地質工学・探査工学・地盤工学・岩盤工学・防災工学などに関する研究活動を活発に行なった。さらに、これまでの研究成果を踏まえ、地球システム工学に関する研究成果の普及とその有効利用を促進するために、特別講演会を 1 回、研究会を 3 回、エネルギーフォーラムを 5 回主催すると共に、平成 21 年 9 月 7～8 日にタイ国バンコック市の Imperial Queen's Hotel で開催された EIT-JSCE Joint International Symposium 2009—Geotechnical Infrastructure Assent Management—及び、平成 21 年 10 月 15～16 日に京都市の京大会館で開催された The 13th International Symposium on Recent Advances in Exploration Geophysics を後援及び共催した。また、当財団法人のホームページの充実を通して関連科学技術の啓蒙普及に尽力した。以下に本年度の活動状況を示す。

[1] 理事会、評議員会

「平成 21 年度 第 1 回定例理事会」

平成 21 年 6 月 23 日、10：00～12：00、 京都大学桂キャンパス C1-2 号棟 226 号室

出席理事：7 名（全員）、 出席監事：2 名（全員）

「平成 21 年度 定例評議員会」

平成 22 年 3 月 2 日、14：00～16：30、 京都大学桂キャンパス C1-2 号棟 217 号室

出席評議員：16 名（全員）、出席理事：2 名、 出席監事：2 名（全員）

「平成 21 年度 第 2 回定例理事会」

平成 22 年 3 月 29 日、14：00～16：00、京都大学桂キャンパス C1-2 号棟 217 号室

出席理事：7 名（全員）、 出席監事：1 名、 出席顧問：1 名

「平成 21 年度 臨時理事会」

平成 22 年 3 月 29 日、16：15～17：00、京都大学桂キャンパス C1-2 号棟 217 号室

出席理事：7 名（全員）、 出席監事：1 名、 出席顧問：1 名

[2] 部門研究会活動

現在、当財団法人内には次に示す9部門研究会が設置されており、それぞれの部門研究会が活発な研究活動を実施するとともに講演会および研究会を開催した。

- | | | |
|---------------|-------------|--------------|
| 1) 地球統計学研究会 | 2) 岩盤工学研究会 | 3) 写真計測研究会、 |
| 4) 京都地盤研究会 | 5) 岩盤水理研究会 | 6) ジオリスク研究会、 |
| 7) 東南アジア岩盤研究会 | 8) 地下可視化研究会 | 9) 地下水工学研究会、 |

[3] 事業

1) 調査受託

調査受託は無かった。

2) 研究受託

11件の研究を受託し、活発な自主的及び公益的研究を実施した。

3) 研究会・講演会・講習会

1. 主催

今年度は部門研究会が中心となる下記の講演会・研究会及びフォーラムを合計9回開催した。以下に開催日順にその内容を示す。

① 京都地盤研究会 第14回 特別講演会

日時：平成21年5月14日 15:30～17:00、場所：京大会館101号室、参加者：48名
「原子力発電所の地震安全—耐震設計とリスク評価連携の枠組み」

京都大学名誉教授 亀田 弘 行

(独立行政法人 原子力安全基盤機構 技術顧問)

(独立行政法人 防災科学技術研究所 客員研究員)

※参加者は、土木学会認定CPDプログラム(認定番号：JSCE09-0064)(CPD単位：1.5)
及び土木施工管理技士会認定プログラム(登録番号：53225)(ユニット数：2)を取得できる。

② 京都地盤研究会 第40回研究会

日時：平成21年7月29日 13:30～17:00、場所：京大会館210号室、参加者：84名
「国内のナノテクノロジーの現状と将来—建設分野に応用できるか」

京都大学大学院工学研究科マイクロエンジニアリング専攻 教授 小寺 秀 俊

「道路行政を巡る最近の話題について」

国土交通省京都国道事務所 所長 見坂 茂 範

「関西の社会資本整備の方向と入札契約制度」

国土交通省近畿地方整備局 企画部長 塚田 幸 広

* 参加者は、土木学会認定CPDプログラム(認定番号 JSCE09-0269)3.5単位および全国土木施工管理技士連合会認定CPDSプログラム(登録番号 62538 4ユニット)を取得できる。

③ 地球統計学研究会 第1回 エネルギーフォーラム 2009

日時：平成21年11月4日、場所：京都大学・桂 キャンパス

参加者：46名

「高レベル放射性廃棄物地層処分プロジェクトの現状」

電力中央研究所 木方 健三

④京都地盤研究会 第41回研究会

日時：平成21年11月5日 13:00～17:00、場所：京都大学百周年時計台記念館 国際交流
ホール I

参加者：52名

「小規模建築物基礎設計指針の概要と残された問題点」

東海大学工学部建築学科 教授 藤井 衛

「表面波探査・微動アレー探査で地盤の構造を解明する」

中央開発株式会社 ソリューション本部 部長 馮 少孔

「京都市の景観条例制定の背景と展望」

京都市 景観創生監 寺田 敏紀

※参加者は、土木学会認定CPDプログラム（認定番号JSCE09-0587 3.5単位）及び全国
土木施工管理技士連合会認定CPDSプログラム（登録番号76338 3ユニット）を取得で
きる。

⑤地球統計学研究会 第2回 エネルギーフォーラム 2009

日時：平成21年11月16日、場所：ニューザ川崎セントラルタワー

参加者：50名

「エネルギー備蓄政策の課題と展望」

京都大学大学院工学研究科 教授 青木 謙治

⑥地球統計学研究会 第3回 エネルギーフォーラム 2009

日時：平成21年11月30日、場所：JAEA瑞浪深地層研究センター

参加者：24名

「URLにおける施工性能評価試験」

名古屋大学 吉田 英一

⑦地球統計学研究会 第4回 エネルギーフォーラム 2009

日時：平成21年12月14日、場所：京都大学 吉田キャンパス

参加者：45名

「LPG国家備蓄プロジェクトの現状」

(独) 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) 中島 秀一

⑧「京都地盤研究会 第42回研究会」

日時：平成22年1月20日 13:30～17:00、場所：京都商工会議所 3階 講堂

参加者：72名

基調講演「地下の可視化技術の現状と課題」

京都大学大学院工学研究科 教授 松岡 俊文

「探査用高感度MEMS加速度センサを用いた次世代反射法地震探査システム開発」

曙ブレーキ工業(株) 開発本部電子応用技術部 部長 国見 敬

「河川堤防調査における物理探査の役割と最新技術の適用事例」

財団法人深田地質研究所 理事・研究部長 高橋 亨

※参加者は、土木学会認定CPDプログラム（認定番号JSCE09-0750 3.5単位）

及び全国土木施工管理技士連合会認定CPDSプログラム（登録番号 84041 3ユニット）
を取得できる。

⑨ 地球統計学研究会 第5回 エネルギーフォーラム 2009

日時：平成22年3月12日、場所：千葉県船橋市

参加者：18名

「三次元探査船「資源」の運用実績」

(独) 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) 鈴木 孔、他

2. 共催

① The 13th International Symposium on Recent Advances in Exploration Geophysics

開催日：平成21年10月15日～16日

3. 協賛

なし。

4. 後援

① EIT-JSCE Joint International Symposium 2009 – Geotechnical Infrastructure Assent
Management –

開催日：平成21年9月7日～8日

以上のように本年度は自主研究及び受託研究を実施するとともに、講演会・研究会及びフォーラムを開催して、地球システム工学の中心的な学問分野である地質工学・探査工学・地盤工学・岩盤工学・資源エネルギー工学に関する研究および啓蒙・普及活動を積極的に行ない、関連する科学技術の発展に寄与するとともに有意義な多くの研究成果が得られた。

以上